

世帯と人口

(9月1日現在)

世帯 44,445 (+ 43)  
 人口 119,389人 (+ 40)  
 男 60,934人 (+ 10)  
 女 58,455人 (+ 30)

# 広報えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

\*この広報は再生紙を使用しています。

9月下旬の祭礼の前に山王稲荷を清掃する有志のみなさん



えびな模様…望地から

## 「古き良き時代」を継承

### 「みどり」と伝統」新旧調和

かつては「10軒村」といわれた望地。以前(昭和初期)は田、畑、林、社があるだけの地域で、家屋は10軒にも満たませんでした。夜にもなると、真つ暗な闇の中を「狐火」がポツ、ポツと点滅しながら移動するのを、何人も人が目撃していたり、同地区西側を流れる目久尻川の河童が、田んぼで仕事をしておじいさんの尻をたたいた、という伝説「じじい田」が、今も地名として残っています。

望地の氏神様でもある山王稲荷。以前は9月下旬の祭礼で芝居が催され、各地から人が訪れていました。子どもたちには、林や小川がある遊び場として親しまれ、夏には社の周辺で、昆虫やハヤを捕って遊んだそうです。

そんな望地に変化が起こったのは、開発が行われベッタタウン化が進んだ昭和40年代からです。県営住宅、県営団地等が次々と建てられ、各地から多くの人が望地に転入。そのため、新旧住民の親睦を深めようと懇親会が結成され、盆踊りや旅行などが催されました。地区内唯一の道祖神の前で、枝につけただんごを焼く1月の「どんと焼き」にも、徐々に新住民が参加するようになりました。

「以前の10軒村も、いつの間にか住民が10000人を越し、人家も比べようもないくらい増えました。しかし、まだまだみどりも多いし、地区内には昔を思わせる静かな雰囲気が残っています」と、古者の1人。

山王稲荷で遊んだ子どもたちも今や熟年ですが、こうした人たちを含む地元の有志が、現在も社の清掃を行い、場所こそ変わりましたが「どんと焼き」も健在。望地は、心安らぐ「古き良き時代」を確実に継承している地区のひとつです。

### 望地アラカルト

◎人口(9月1日現在)

1,192人

(男585人・女607人)

◎世帯

428世帯

◎面積

0.21平方キロメートル

【市全面積 26.48平方キロメートル】

◎地名の由来

伝説に「昔、寺の創建にあたり国分寺の住職が開山になる僧を伴い、国分の丘陵からこの地を見下ろし位置を決定した。住職は『貴僧が望んだ地ゆえ望地とするがよい』と言った」と、ある。